

若手技術者セミナーに参加して

(株) 復建技術コンサルタント 窪山 篤



今回、私は第35回若手技術者セミナーに参加させて頂いた。約20人程度の人数が集まり、地質調査業についての更なる理解とこの業界で繋がりを持つ意味でも大変有意義なものであったと感じる。初日は東日本大震災で被災した折立団地被災現場を視察した。被災のあった地域でも特に被害の大きかった現場ということで、ショックを受けた人もいたのではないかと思う。夜には、ざっくばらんな雰囲気で見聞交流を行った。日頃思っていることや聞きにくいことなど参加した人達は気軽に聞くことができた。

2日目は参加者が2グループに分かれ、ディスカッションを行った。私はグループ2に参加し、グループ2では、2つのテーマについて議論を交わした。1つめのテーマでは、(テーマ1) セミナーに参加した方々が常日頃疑問に感じていること、思っていることについて議論した。2つめのテーマでは、(テーマ2) 今回のセミナーで視察した東日本大震災で被災した折立団地の現状・対策とこうした自然災害に対する我々の役割について議論した。

テーマ1では、日頃あまり聞けないような小さなことから大きなことまで、様々な質問・意見が出た。その内容として、

- ①滑動崩落が発生した現場での対策として、抑制工と抑止工の違い
- ②安定率の仕組み
- ③技術提案書とは? また、相手に伝わりやすく技術提案書を書くには?
- ④構造物の沈下する時の地質条件・対策等
- ⑤これからの地質調査業

といったものが挙がった。グループ2に参加したメンバーは、ボーリングを掘っている方や、設計をメインで行っている方、技術営業の方や地質調査の中でも、土質試験を行っている方、調査がメインの方など様々な方がおり、普段、専門が異なることで意見交流ができない方と話すよい機会になり、多様な観点から地質調査業を見ることができた。

テーマ2では、一日目に視察した東日本大震災で被災した折立団地を見学しての感想や、復旧に向けての現在の対策の進捗、これから何が必要なのか、といったことについて議論を交わした。今回の震災は特殊なケースで、行政側が仙台市内全域で被害のあった宅地を復旧する業務として取り扱った。だが、もっと小規模で被害が発生した場合等では、個人で復旧をしなくてはならない。その時に今回の地震では、被害を受けなかったが、自分が住んでいる地域の地質は大丈夫なのか? 滑動だけでなく、液状化などは? という疑問を各個人がもつことで、地質調査業についてもっとより多くの人に知ってもらえる機会になり、今回の震災を教訓にできればよいと私たちは考えた。

今回、私は本セミナーに参加して、被災した折立団地を見学してこれからの復旧に向けての対策や課題を知り、震災から1年8ヶ月がたち復旧計画がまとまりつつあるという地盤評価の難しさ、地質調査業全体の今後の課題。また、私自身常日頃思っている疑問や意見に対しても真摯に答えて頂き、勉強になった。今後も、こういった機会に積極的に参加するようにしたい。

土木地質（株）技術部 杉澤 大輔



平成24年の第35回若手技術者セミナーに参加しました。

例年通り2日間の日程で行われ、以下に参加した感想等を記述します。

1. 仙台市折立団地現地研修会

2011年3月11日に発生した東日本大震災やその後の余震により、仙台市中心部から5～7kmほどにある昭和30～50年代にかけて造成された団地において、崩落や地すべりなどにより多くの宅地が被災しました。そのうち現場研修会は宅地被害の多い折立5丁目地区となりました。

被害状況は宅地造成時の盛土・切土の境に、旧沢地形内の盛土部分が地震動により地すべり状に変状しており、末端部では最大で2.3m移動していました。

私は普段の業務において、地震により被災した宅地調査の業務を行い、盛切境で変状が出やすいのは理解しているつもりでしたが、当団地の顕著な地すべり状のマスムーブメントの被災を目の当たりにし、改めて今回の地震の大きさを痛感させられました。

2. 意見交流会

現地研修会後、ホテルに戻って意見交流会という名の食事兼懇親会です。自分が座った位置は他社の支社長が隣り合っており、大変恐縮でしたが、お話出来る機会もそうそうないと思い、お酒の力も借りてお話をさせて頂きました。

意見交流会は2時間程度で終わり、その後の2次会も参加しました。自分が位置取った周りには各社営業系の方々が集まっており、営業の話を主としてその他世間話に参加させてもらいました。

意見交流会と2次会を通して、普段接す

る事の無い他社支社長や営業の方々にお話を伺い、また楽しく話が出来た様に思います。ただ、自分は他の若手技術者の方と交流をあまり持てなかった事が1つ残念でした。

3. 宅地保全審議会専門委員会資料説明とグループディスカッション

2日目は仙台市の宅地保全審議会技術専門委員会で使用した折立団地の中間報告の資料等の説明を受けた後、参加者を2グループに分けグループディスカッションです。

グループディスカッションでは、前日現場視察した折立団地の内容にかかわらず、海上ボーリング、平板載荷試験、ミニラム試験、人肩運搬やモノレール運搬などの現場に関する内容の他、地質調査業界のあり方や技術と営業のコミュニケーション等、それぞれが普段の業務の中で疑問に思っている内容等話をしました。

4. 最後に

私は2011年1月から現在の会社に所属しております。その前は実家のある岩手県内にて全く別の仕事をしており、仙台に来てまもなく地震により被災し、その後の震災復興に関わる業務に携わってきました。3月11日の地震で家や身内を亡くし悲しい思いをされている人達が大勢いますが、私はこの時期にこの地に来て、復興に関わる業務に携わっている事を誇りに思っています。

若手セミナーに参加して様々な方とお話をし、未だあまりわかっていないこの業界の技術、雰囲気そして人に少し触れました。私はこれを糧に、これからの携わるであろう業務や震災復興にも微力ながら貢献したいと思うと共に、いっそう自分を高めていけたらと思っております。

(株)ダイヤコンサルタント 東北支社 小峰 佑介



平成24年度の若手技術者セミナーは、10月26日～10月27日にかけて開催された。初日は、仙台市の折立団地において、地震地すべりによって発生した変状などを観察した。2日目には、2グループに分かれ、それぞれテーマを定めてのグループディスカッションが行われた。

1日目は、昨年の東日本大震災によって被害を受けた仙台市郊外の折立団地を見学した。事前に資料が配付され、写真で被害状況の説明は成されていたが、実際の現場では、写真で見るよりも被害が大きく感じられ、衝撃を受けた。現場では、地表に現れている亀裂の方向や形状を観察し、地すべりによる土塊の移動方向などについて検討した。震災による被災地の見学は、非常に痛ましいものであったが、実際に行われている地質調査の流れや対策工の種類などについて学ぶことができたため、私にとっては貴重な経験となった。見学後は、ホテルにおいて意見交流会が開催された。内容はざっくりばらんなものであり、普段は、同業他社の方々と交流する機会がないため、非常に有意義なものであった。交流では、若手の中でも、特に20代から30代の若手が少ないという意見が印象に残り、業界が抱える悩みの1つが分かった。

2日目は、2グループに分かれてグループディスカッションを行い、最後に討議した内容をまとめて発表した。私が参加したグループでは、それぞれが普段疑問に感じていること、そして地質調査業界の今後の展望などを中心に討論が行われた。グループ内では、私と同じく入社間もない若手も多く、皆似たような疑問を抱えていることがわかり、共感するこ



仙台市折立団地の被災状況

とができた。今後の地質調査業界全体に関しては、地震や津波に伴う災害が起きる中で、いかに予防的な対策（技術的な支援）ができるかが重要であるという意見が出された。そのためには、日々技術力の向上に努めるとともに、これからの業界を担う若手にその技術を伝えていくことが重要なのではないかと感じた。

若手技術者セミナーは、同じ分野に携わる方々と意見交換を行うことのできる貴重な機会である。したがって、今後のセミナーも、知識を習得し、お互いに刺激し合える場になることを期待している。